

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 7 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 6 期）	
開催日時	令和 6 年 7 月 1 6 日(火) 午後 6 時 3 0 分～午後 8 時	
開催場所	高松市役所 1 1 階 1 1 0 会議室	
議 題	1 創造都市推進施策に係る意見交換 2 その他	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	
上記理由		
出席委員	多田会長、湯川副会長、林委員、土井委員、三木委員、棟近委員、松井委員、西森委員、水原委員	
事務局	次田創造都市推進局長 産業振興課 松本課長、平井補佐、岡本係長、伊藤主事	
市参加者	産業振興課	岡本係長、伊藤主事
	農林水産課	末原補佐、橘係長
	観光交流課	島崎係長、田中主事
	文化財課（菊池寛記念館）	宇都宮係長
関係者	株式会社 S T N e t コンシューマー営業本部 コンシューマー営業推進部 オフィス営業課	片山 紀夫 氏
傍聴者	0 人	
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1	

審議経過及び審議結果

1 開会
（事務局から開会挨拶）

2 意見交換

【会長】

前回に引き続き、意見交換を行っていきたい。今年度、最後の会議になるので、最後に、各グループで、どのような話をしたのか、全体で共有する時

間を持ちたい。

(各グループで意見交換)

【会長】

グループごとに、どのような意見交換をしたのか、発表してほしい。

【産業振興課グループ】

「高松市DXインフルエンサー（仮称）」と称して、高松市で事業をしている社長やDXの担当者に動画に出てもらい、「あなたの会社はDXできていますか？」という質問に対して、「はい」又は「いいえ／どちらともいえない」で答えてもらう。「はい」であれば、「どのようにDXを進めたのか」、「取り組む前後でどのような変化があったのか」の話をお伺いする。「いいえ／どちらともいえない」であれば、「みらデジ（中小企業庁・中小機構）」という診断ツールを使用して、DXの進捗具合や業界比較を行い、課題を洗い出して実際の改善を考えていく。このような流れで何社か動画を作成する。

意欲的に動画に出て、それを発信してくれる会社に出演をお願いし、地域DXを盛り上げていくことが大事なので、その点を意識して動画を作成する。

【観光交流課グループ】

Z世代への効果的な情報発信方法について話し合いを進めてきた。前は、コミュニティ・コワーキングスペースに注目してアプローチしていくという話が出ていたが、今回は学校に着目して話し合いを進めた。

例えば、学生にSNSで何か情報発信してもらうコンペのようなものを行い、若い世代の目線で高松市の魅力を掘り起こしてもらおう。事前に観光地の取材に行ってもらおうことで、観光地に若い世代が集まり、にぎわう観光地を演出することができる。そうすると、他の方も行ってみたいくなり、観光客を呼び込めるのではないかという話になった。

また、高松市はコンパクトシティを目指しているが、車を持っていない若い方に公共交通機関を活用してもらい、アクセスの良さというところで、情報発信につなげる。

高松市のレンタサイクル事業について、自転車だけで巡れる観光地の情報発信ができる。

高松と何かテーマを関連させる情報発信もできると思う。テーマとしては、音楽やアート、おしゃれ等が考えられる。音楽系のイベントで市と関わりがある事業者もいて、生活の中に音楽が根付き、高松といえば音楽という形で定着していけば、盛り上がっていくようなまちづくりにつながるのではないかな。

コミュニティに対して何かをしていきたいという話になったが、具体的な所は決まっていないので今後検討したい。

【文化財課グループ】

菊池寛記念館の認知度を高めるための意見やアイデア、また、若い世代に、菊池寛記念館に足を運んでもらえるような案を話し合ってきた。

内容は以下のとおり。

- 菊池寛記念館の Instagram を開設する。
- リーフレットにHPの二次元バーコードがなかったので、更新の際に入れるようにする。
- 学芸員にスポットライトを当てた企画として、ホームページにブログ風に呟けるようなページを作成し、学芸員の裏話や企画展の見どころ等、菊池寛を身近に感じてもらえるような内容を掲載する。
- 毎年、「ブラリきくちかん」という菊池寛に縁のある名所を街歩きする企画を行っている。高松市の美術館の「和装ウィーク」やスケキヨや金田一耕助の恰好をしてゆかりのある場所を歩く、倉敷市真備町の「1000人の金田一耕助」の企画をヒントとして、和装や大正ロマン風の装いで「ブラリきくちかん」を行ってはどうかな。
- U40の委員の分野（写真・演劇・フライングディスク）と菊池寛記念館の取組を組み合わせたワークショップを開催する。

【農林水産課グループ】

高松市では、魚の消費量が落ちてるので、その改善方法を検討してきた。

地魚の流通量を増やすために、地魚を手軽に買える自動販売機を活用したデータ収集分析の実施を事業化したいと考えている。

魚は午前中しか売っておらず、購入しても保管する場所がない、また、料理が大変という課題を解決するために、魚を買いたい人が多い場所に魚の自動販売機を設置する。その自販機で1次加工品又は完全に調理済みの商品を冷凍で販売する。自販機を活用することによってデータ分析を行える。これらを一括した委託事業として実施したい。

新たな魚ビジネスを生み出す事業を作っていきたい。

(第6期創造都市推進懇談会最終回に当たり、U40委員から一言ずつ挨拶)

3 閉会

創造都市推進局長より挨拶

(事務局から事務連絡をして閉会)